

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	九州大学				
取 組 名 称	医療現場との情報双方向性を持つ保健学教育				
取組学部等	医学部保健学科				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21054	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専門基礎	職業教育		ICT	
キ ー ワ ー ド	保健学教育, e-ラーニング, 医療技術教育コンテンツ, ICT, オープンコースウェア				

<選定理由>

本取組は、医療現場からの教育ニーズを取り込んだ新たな保健学教育を行うという意義のある取組である。

これまでの多くの ICT 取組と違って優れている点は、現場のニーズを把握した上でコンテンツを作ること、それを「オープンコースウェア」として公開することとともに、学科で作成した IT 教材がすでに「日本 e-ラーニング大賞文部科学大臣賞」を受賞するなど実績を持つことが上げられる。これまでに作成された教材、今後作成予定の教材のリストからは、現場との双方向性の成果が読み取れる。

その内容から考えて、提案された ICT 教育は、学部学生に対する教育と同時に、卒後教育としても重要な意味を持つと思われる。さらに、保健学科だけでなく、医学部医学科の学生教育としても、重要なコンテンツを含んでいる。それらの点を考え、さらに発展することが望まれる。

その一方、これに含まれている内容や、個人情報にも関与している点を考慮し、「オープンコースウェア」として慎重な扱いが必要である。

取組の概要【1ページ以内】

保健学は、健康を探求し、個人及び集団の健康の回復・維持・増進を、さらに疾病、障害の予防を追求する学問であり、九州大学医学部保健学科では、幅広く保健学を学んだ看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の医療従事者を養成している。多くの卒業生は病院等の医療機関や保健所などにおいて活躍しているが、大学院へ進学し、専門性の高い実践者や保健学分野での教育者・研究者として、あるいは医療関連の企業で開発者・研究者として活躍を期待される人材も輩出している。このような人材を育成する中で、保健学の教育は常に現在の医療環境と教育へのニーズを十分に把握しておく必要がある。現在、科学技術の進歩に伴い、医療機器・医療技術が飛躍的に発展し、多くの人々を幸せにしているが、一方では医療事故や医療不信などの課題ももたらしている。また、医療の範囲が疾病の予防や健康増進へと拡大されるのに伴い、保健・予防医学の重要性が極めて大きくなっている。このように、**医療・保健・福祉を取り巻く環境は急速に変化しており、これに対応した保健学教育の改革が望まれている。**

九州大学医学部保健学科では、このように急速に高度化・先端化する保健・医療・福祉分野の進歩に対応した教育を実施するために多くの教育改革の試みを行ってきた。これらの試みの中でも、学生の主体的学習を奨励し、学習効果が高いe-ラーニングの導入は、教育に大きな効果を上げており、その実績が認められ、本学科で作成したIT教材が2006年の第3回日本e-ラーニング大賞文部科学大臣賞を受賞した。

本取組では、これまで培ってきたe-ラーニングによる教育の情報化をさらに進めるとともに医療現場と教育現場の間で双方向に情報交流できる仕組みを構築し、医療現場からの教育ニーズを取り込んだ新たな保健学教育の創出を行うことを目的とする。取組の具体的な実施計画を次に示す。

- ① 最新の情報通信技術（ICT）を用いて医療従事者のための情報サイトを開設し、医療従事者に役立つ情報を発信すると同時に医療現場からの教育ニーズや情報を収集・分析する。
- ② 上記分析に基づき、保健学教育における教育目標の見直しと教育内容の精選、ならびに教育方法の開発を行う。
- ③ 医療現場からの教育ニーズと高度化した医療技術に対応した保健学分野における**最新の医療技術教育コンテンツ**を作成する。これらの教育コンテンツは現場の医療従事者にも役立つレベルのものとし、ICTで公開できる英語を含むバイリンガルな電子教材とする。
- ④ 医学部保健学科での実践から本取組による教育的効果についての評価を行う。
- ⑤ 作成した各保健学分野の教育コンテンツはオープンコースウェアとして、各分野の医療従事者に利用してもらい。その評価を収集・分析してさらにコンテンツの質を向上させる。

このような医療現場のニーズを反映した形での保健学教育の見直しを組織的に行っている例はなく、医療系教育を行っている他の教育機関へのモデルケースとなることが期待できる。

さらには、本取組で作成した最新の医療技術教育コンテンツは、**オープンコースウェア**として現場の医療従事者をはじめとして広く国内外の医療系教育機関へ公開するため、全体の医療の水準の向上にも大きく寄与するものである。